

# 同窓 青 会報



福島県立郡山北工業高等学校

平成4年2月29日 第42号 発行所 〒963福島県郡山市富久山町八山田大林1 福島県立郡山北工業高等学校同窓会 ☎(0249) 32 1199 発行者 先崎一郎 編集者 佐々木郁雄 発行部数 11,000部 印刷 石橋印刷株式会社



も く じ

同窓会定期総会 .....	2	部活動(野球部、サッカー部、陸上部、バレー部 吹奏楽部) .....	9
同窓会長挨拶 ~先崎 一郎~ .....	3	東京支部総会 .....	10
企業内支部設立会 .....	4	定時制生徒会活動について ~渡辺 積雄~ .....	10
第2回北窓会定例総会 .....	4	平成2年度決算報告 .....	11
校長挨拶 ~堀金 敏幸~ .....	5	基本金報告 .....	12
日立支部母校訪問 —記念植樹— .....	6	新会員報告 .....	12
日立支部総会 .....	6		
生徒会活動について ~吉田会津夫~ .....	7		
進路指導部から ~高久田 稔~ .....	7		

# 同窓会定期総会開催

## 強力な母校支援 広域な活躍を報告

平成3年度定期総会は平成三年六月一日(土)午後五時半から郡山市駅前の郡山ビューホテル・アネックスで開かれ、二百七十人余の会員に、地元経済界を代表して郡山商工会議所の大高善兵衛副会頭や佐藤正与前校長ら来賓の出席をいただいで、昨年を上回る盛況をみせた。

総会は佐々木郁雄事務局長の司会で進められ、今泉善治副会長が開会を宣言。先崎一郎会長が出席者への御礼を述べたあと、「昨年は三点の組織活動目標を掲げ、その一つとして母校への支援活動のため、北窓会を結成して活動をはじめました。皆様のご協力を得て、第二発展期に向けて、さらに努力をして参ります。」とあいさつ。

この支部活動や会員の動向についてあいさつしたあと、議事に入り、庶務報告、平成二年度決算、監査報告、三年度予算・事業計画などを原案通り承認可決した。このあと、企業内支部結成の経過説明があり、広江力男元事務局長を顧問に推薦し、先崎一郎会長ら現役員を再任して総会を終えた。

第二部の懇親会では、来賓の郡山商工会議所の大高善兵衛副会頭が「郡山市の経済界・産業界に多くの人材を輩出している郡山北工高同窓会に敬意を表すと同時に、各界における一層のご活躍を期待します。」とあいさつ、出席者に感銘を与えた。山口紀夫PTA会長、佐藤正与前校長らも続いてあいさつ、植田英一元PTA会長(県議)の発声で乾杯。今春卒業の新入会員の姿も目立って、旧職員や恩師を囲んでの祝宴はなごり尽きないまま盛会のうちに閉会した。



### 先崎会長 第二発展期を強調

「昨年の総会で同窓会の組織活動目標として①母校への各種支援活動 ②会員相互の交流と情報活用 ③若年会員の増強と同窓会活動の活性化の三点を掲げました。一つ目は同窓会OBで企業オーナー十六社による「北窓会」が発足以来一年数カ月になり、会費や基金が蓄積されて、要請があれば支援が出来る態勢

になって来たと思えます。物的支援以外にも本校同窓会一万六千名の組織力をバックにして、母校発展のため地域への広報活動、情報収集等ソフト面での幅広い支援活動も学校側と相談しながら実施して参りたいと考えております。また二つ目は、本部・支部・職域との密接な交流を通じて、お互いのメリットを生むような組織へ進めつつありますが、当面はこの人手不足の折、つとめて母校から後輩を自社に引き込むことも大事ではないかと思っております。最近も東京支部の先輩などからそうした求人要望が私に寄せられており、私も会長として少しでも役に立つべく学校側へのコンタクト役を喜んで引き受けております。

す。三つ目は、企業も組織も「若い人」が入ってこなければ必ず衰退しますし、最後は消滅します。私は時期到来とみて役員の皆様や学校側と相談して「企業内支部」の結成を呼びかけました。「お陰様で二十三社の賛同を得て六百余人の規模となっております。」とあいさつ、さらに「北工卒」が過半数を超えたいまま、郡工・西工・北工のわだかまりを一掃して、会の発展をはかるべきだと思えます。皆様、二代目執行部は渡辺前会長、広江元事務局長らの残してくれた基盤の上に立って、「第二発展期」に向けて試行錯誤しながら「あるべき姿」に向って努力をして参ります。皆様方のご協力を心からお願いたします。」

### 同窓会定期総会のお知らせ

平成4年度定期総会を下記のように開催いたします。多数ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

- 1. 日時 6月6日(土) 午後5時より
- 2. 場所 郡山ビューホテル 4F  
安積の間  
TEL (0249) 24-1111
- 3. 会費 5,000円  
※新会員(平成3年度卒業生)は会費3,000円です。

詳しくは、同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL (0249) 32-1199

# 良い企業の門はいつも狭い

## 華やかな宴が終り 「普通の時代」へ



同窓会会長  
先崎 一郎

一九八六年から始まった大型で華やかな「平成景気」は、いざなぎ景気を超えたのかどうか定かでないまま、その幕を閉じた。そしてバブル経済に伴うさまざまな後遺症は残したものの、その恩恵の部分にも眼を向けねばなるまい。つまり企業はこの数年で、技術革新

や設備の更新、財務内容の改善、人材の増強など、いわゆる基礎体力の強化を一気に推し進めることができたし、個人生活の面を見ても、賃金の引き上げや労働時間の短縮で、豊かさの質が変わったと思う。そして宴のあとに続いて「普通の時代」へと、大規模な地殻変動がすでに始まっている。「普通の時代」と言うとは何か安閑で平穏な時代をイメージしがちだが、実は世界と日本、地域と企業、会社と個人、といった構図の中で、それぞれが難しい対応を迫られる時代の大きな転換機と捉えた方がいい。

### 企業の願望、 選ばれる側から 選ぶ側に

紙面の関係から今回は、「会社と個人」の側面からこれからの変化を考えてみたい。

「北窓会」は本校同窓会メンバーで、会社経営に携わる有志によって結成された母校、同窓会への支援組織だが、最近はその「強会」の様相が強くなってきた。

- ・ 良い会社、魅力ある企業とは？
- ・ 二十一世紀に勝ち残れる企業の条件
- ・ 株式公開の是非

などいろいろな視点からマネージメントの在り方を模索してきているが、幾つかの共通認識が形成されつつある。主なものを要約してみると

- ・ 日本も戦後四十有余年を経てもやっと働く者にとって良い時代を迎えた。
- ・ 我々経営者は、個人のおかげがえのない人生の一部をお預りしている。
- ・ やる気、創意工夫、改善提案、愛社精神などいわゆる「個人の内なるエネルギー」こそ、これからの大事な経営資源。
- ・ 社員に愛され、地域に尊敬される企業しか二十一世紀に残れない。

などなど抽象的だが、いずれも自社の経営に前向きな危機感を抱いており、従来の経営概念をすべて御破算にして、新たな理念や哲学、思想や価値観を再構築しようという意気込みをひしひしと感ずる。そして意識改革の根底にあるものは、「個人が企業を選ぶ」現実をやがては「選べる企業」になりたいという強い願望である。

### 理想の姿は モテる男と モテる女の関係。

企業が個人から好かれ、愛されたいと懸命に努力した結果、素晴らしい魅力ある企業に変身できたでしょう。そうすると個人は、会社のレベルまで自身自身を高めようと努力することになる。ライバルの出現も意識するからだ。それはモテる男とモテる女の関係に似ている。お互い気を抜けない、安心できない、そんな緊張感が、またお互いを磨きあげていくことになる。

構造的な人手不足の続く中で、これからも若い人が就職に困ることはまずあるまい。但し、選り好みをしなければの前提だ。

「いつの世も良い会社の門は狭い」。

# 企業内支部を結成

## 会の活性化に

### 23社が結集

同窓生の多い企業内には、これまで親睦会的なグループがいくつあったが、これらを組織化して、先輩後輩のコミュニケーションはもちろん、あとに続く後輩の育成や定着化、または受け皿づくり等を図って、各企業の活性化に寄与しようと、企業代表二十三人が呼びかけて「福島県立郡山北工業高校同窓会・企業内支部」が結成された。

発足を祝う会は、平成三年四月二十六日午後五時から二十三日の代表ら五十人が出席して郡山市の郡山会館で開かれた。はじめに先崎一郎同窓会長が「本日本お集まりの会員企業には、六百人余の同窓生がお世話になっております。このワンパワーを結集して、企業への業績貢献と同窓会のさらなる発展と活性化に結びつけて欲しい」と、企業内支部の設立主旨と会の運営について挨拶した。

続いて来賓として出席した堀金敏幸学校長より、母校支援への御礼の言葉と校内の説明があり、懇親会が行なわれた。席上、幹事より第一回の連絡協議会を兼ねた発会式への案内については、学校側との協議により選定したことが補足された。

企業内支部が発足されたことにより、企業同窓会―母校の連携がさらに計られた。

企業内支部には、支部長、副支部長、企業代表等の役員をおき、支部長は同窓会執行部の本部署役員を兼務、連携を密にする。また支部ごとの連絡協議会を設け、一年に二回の会合を用いてリクルート情報の交換や総会への出席勧誘等、本会活動の側面的なバックアップを行なう。

#### 企業内支部会員次の通り

- ▽曙ブレーキ工業三春製作所、▽アサカ電子、▽アサヒビール福島工場、▽石川島産業機械、▽石橋工業、▽ケイエッチエスK事業所郡山工場、▽郡山ヒロセ電機、▽ソニーエナジーテック郡山工場、▽白沢建設、▽ユアテック福島支社、▽東北武田化成、▽東北エンタープライズ、▽ニノテック、▽日本化学工業郡山工場、▽日本ビクター郡山工場、▽八光建設、▽信越石英郡山工場、▽福島情報センター、▽福島トヨペット、▽福島日産自動車郡山支店、▽三菱電機郡山製作所、▽横河エレクトロニクス郡山工場、▽米沢電線郡山工場

(順不同)



## 第2回北窓会総会開く

### 錦織氏が記念講演



東邦銀行 錦織 太郎氏

母校の支援活動の組織の一つとして発足した「北窓会(会員企業十六社)」の第二回定例総会が平成四年一月二十三日午後五時半から、郡山市の郡山ビューホテルで清水善一会長らが出席して開かれた。



北窓会会長 清水 善一

総会を記念して特別講演も行なわれ、東邦銀行常務・郡山支店長の錦織太郎氏が「地域経済の見通しと対応について」と題して、地域経済の実体を日本経済の動きを通して分かりやすく解説しながら講演した。

総会では、清水会長を議長に選び、平成三年度の事業・決算報告、新年度の事業計画・収支予算を承認したあと、役員改選が行なわれ全役員が再選された。

このあと会長に再選された清水会長があいさつ、「本校は同窓会とは別に同窓会と母校を経済的に支援する会です。また母校に対する求人熱い目差しでもあります。景気は減速気味と言われ不況心理が浸透しておりますが、我が北窓会は一致団結して、企業活動のサブイバルゲームに勝ち残り、生き残って行きたい」と述べた。



第2回北窓会定例総会：郡山ビューホテル

卒業によせて

# めざせ二十一世紀の工業人

## 学校長 堀 金 敏 幸



### 一、自己教育力の育成

毎日の授業は勿論のこと、課題研究、各種資格取得等を通して、自から目標を樹て、その目標に向って自から学ぶ意欲と力を育う。

### 二、基本的生活習慣の確立

本校の校訓は「調和」「創造」「特色」であります。この校訓を基本として、学校教育のあらゆる場面を通して、人間としての在り方、生き方を考えさせ、思いやりの心を持つ人間性豊かな人材の育成。

### 三、地域社会に貢献できる人材の育成

今日、郡山市はテクノポリス計画、広域高速交通網の発展に伴い、将来大きな飛躍が期待されております。特に、その中心は工業の発展なしでは考えられません。それを担うのは、本校（郡山北工）の卒業生になります。このことを自覚させ、地域社会（地元企業）に貢献できる有為な人材を育成する。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、本校教育方針のもとに三ヶ年の蛍雪の功なつて卒業され、明日からは新しい道を進むことになりました。是非、この機会にあらためて、前述した本校の教育方針を再確認して下さい。

皆さんの大半の人が企業に就職することになります。企業が求める人材について述べたいと思います。

第一は、積極性に富む人、第二は、協調性のある人、第三は、誠実（まじめ）な人、第四は、能力のある人、以上は資質面からですが、意識面からは、自身に対して「プライド」を持っている人、次に他人に対して「思いやり」を持てる人、また、仕事、組織に対して「愛着」を持てる人です。

マナー（躰）面からは、社会人としての基本的なマナー・ルールを守る人、また、社会的（コミュニケーション）能力を備えている人です。知識・技能面からは、創造性、発想の豊かさを備えた、専門的能力のある技術者、また、技術的知識を兼ね備えた技能者（テクニシャン）です。

以上が、企業が新入社員に望むことです。皆さんは、三年間、本校で学

んだことを基礎として、日々、自己研鑽に励み優れた技術力と豊かな人間性を発揮して、二十一世紀を担う工業人として社会に貢献されることを心から期待してやみません。

同窓会の皆さんには、各方面でのご活躍、心よりお喜び申し上げます。皆さんには、日頃より学校に對しまして、物心両面わたるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、本校の教育目標は、「時代の変化に即応できる工業人の育成にあります。二十一世紀を担う、これからの工業人（技術者）は、めまぐるしく進展する先端技術、高度

な情報化、国際化に伴う産業構造・就業構造の変化に即応できる人材でなければなりません。そのためには、基礎的・基本的な学力をしっかりと身につけ、その上に高度な知識と技術に挑戦できる柔軟な頭脳と強靱な精神力が必要であります。このことをふまえ、平成三年度の学校重点、学校努力目標を次のように設定し、全職員一丸となつて生徒の指導にあたっております。



OA・音響・家電・映像・自動車・暖房機器の  
金属プレス加工メーカー

**石橋工業株式会社**

代表取締役社長 石橋 隆 純 (昭和33年度機械科卒)  
代表取締役副社長 石橋 邦 勝 (昭和35年度機械科卒)  
取締役営業部長 石橋 名 武 義 (昭和35年度機械科卒)

郡山市安積町成田字三渡一 TEL (0249) 45-3411  
FAX (0249) 46-1145

関連事業 アクト技研(株) NCワイヤー、レーザー加工  
TEL (0249) 44-9730  
よもぎ塾<離れ 石橋亭、松籟亭、四季亭>  
TEL (0249) 84-2671

# 桜の木を記念植樹

## 日立支部が母校訪問

平成三年十二月七日(土)、「郡山北工同窓会日立支部」の山川敏夫支部長ら七名が、母校「郡山北工業高校」を訪れ、施設設備、授業等を見学し、校門のわきには、母校訪問記念として、桜の木(一本)を植樹し学校へ寄贈した。

一行は、九時三十六分郡山駅に到着し、同窓会本部からは先崎一郎会長、増子久治副会長、佐々木郁雄事務局長が出迎えた。学校には、十時ごろみえられ堀金敏幸学校長から「遠いところ



母校を訪問した山川支部長ら：正面玄関前で



記念の植樹をする  
日立支部のみなさん

本当にご苦労さまです。心からお待ちしております。」と歓迎を受けた。

学校関係者、同窓会役員との懇談の後、施設設備、授業等を見学された。特に、同窓会館に保管されている「郡工、西工」の懐かしい写真などを見て、当時の頃を思いだし昔の話に花が咲いていた。

校長室で行なわれた、「日立支部関連企業への就職内定者との懇談会」では、山川敏夫支部長から「日立支部一同心から歓迎いたします。安心して日立に来て下さい。」との話があると生徒らは緊張の中にもホッとした一面をのぞかせていた。

その後、正門前で記念植樹が行なわれた。日立支部から寄贈されたのは、桜(染井吉野)で

太さは十センチ、高さは六メートルと立派なものである。山川敏夫支部長が「桜の花が咲く時期にまたお邪魔させていただきます。」とあいさつすると、堀金敏幸校長も「大事に育てます。五年後、十年後、皆様のまたのご来校をお待ちしております。」

と大変うれしそうだった。午後二時から警梯熱海の簡易保養センターで懇親会が行なわれ、日立支部一行は、大変有意義のある一日を過ごされ帰路についた。

## 日立支部総会 新入会員歓迎会も開催

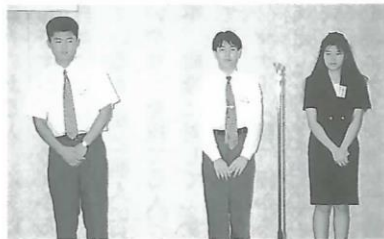


日立支部総会

平成三年六月二十八日、日立市の初崎健康保険センター日立支部総会が盛大に行なわれた。

総会には、学校側から齋藤教頭先生、同窓会本部から、先崎会長、増子副会長、佐々木事務局長が参加した。さらには、同窓生の遠藤裕也さん(東北電力勤務：講習のため来日立中)と、平成三年に日立地区に就職した新人三人(内女性一人)の歓迎会も兼ねて行なわれた。

総会では、輝きに満ちた多数の会員が一同に会し、母校の近況報告に聞き入り、お互いの話



新入会員の左から  
橋本さん・岩村さん・村田さん

題に花を咲かせた。

翌日は、日立支部役員の家内で、齋藤教頭先生と本部役員一行は東京支部総会への移動日ということもあり、短時間ではあったが日立の風光明媚な名勝地を見学され別れを惜しまれた。

その他、日立支部の行事としては、昨年九月二十九日に支部新入会員の激励と懇親を兼ねて支部役員との交流会がもたれ、意見交換などを行ない同窓生としてのつながりを一層強くされたようである。

●カーコンサルタント

# 株式会社 今川

代表取締役 今川直彦 (昭和34年度機械科卒)

本社〒963-01 郡山市安積町荒井東前田37-3 ☎(0249) 45-1623(株)  
 車検センター 郡山市安積二丁目184-1 ☎(0249) 45-8300  
 成田工場 郡山市安積町成田字高田47 ☎(0249) 45-2478

工 作 機 械 作 業 工 具  
 板 金 機 械 測 定 工 具 材  
 溶 接 機 材 研 磨 材

## 株式会社 伊藤商店機材部

代表取締役 伊藤 シク子

〒963 郡山市菜根5丁目21番13号

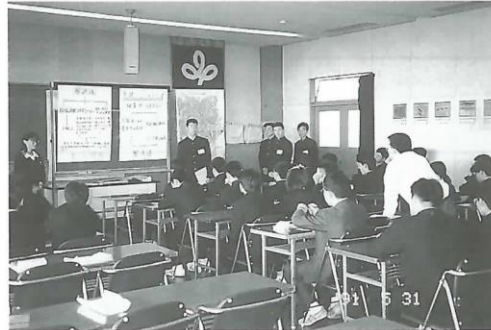
電話 郡山 0249-33-0611(代表) FAX 郡山 0249-34-7113

# 本校の生徒会活動について

生徒会顧問 吉田 会津夫

本校の生徒会活動は、創立当時の精神を受け継ぎ、現在も活発な活動を展開しております。その一つに、リーダー講習会があります。

昨年、松島野外活動センターで行ないました。一・二年の中央委員と生徒会役員六十名が、「今の学校生活で満足か？」のテーマのもとに、小グループに分かれ討議しました。「効果的な授業には、教師生徒間の相互理解が不可欠である」といった意見が出され、そのためにはどうする



生徒会：松島野外活動センター

## 進路指導より

# 今年の進路状況

進路指導部長 高久田 稔

湾岸戦争で幕を開け、ソビエト連邦の消滅と云う歴史に残る大事件で幕を閉じた平成三年は又、生徒の進路決定にも少なからぬ影響を及ぼしました。求人

票の受付が始まった七月一日からは昨年度一年分を越える数の求人が殺到しましたが、夏休みを境に情勢に変化が現われまして。その最たる事は、九月十六

## 平成3年度 進路内定状況

3. 12. 31現在

( ) は女子内数

### 1. 進路内定状況

科	機械	電気	電子	情報	建築	化工	合計
在籍数	123	80	42(1)	43(8)	43(14)	76(31)	407(54)
就職内定数	県内	54	45	20(1)	16(2)	14(6)	187(26)
	県外	35	29	9	17(2)	19(7)	131(15)
	公務員	0	0	1	0	0	3(1)
	自営縁故	0	0	0	0	3	5(1)
計	89	74	30(1)	33(4)	36(13)	64(25)	326(43)
進学数	大学	3	1	1	3(1)	3(1)	11(2)
	短大	0	0	0	0	0	0
	専修	20	1	4	5(2)	4	37(4)
	計	23	2	5	8(3)	7(1)	3(2)
合計	112	76	35(1)	41(7)	43(14)	67(27)	374(49)
未定・進学	11	4	7	2(1)	0	9(4)	33(5)

かというふうに、深めていきま  
す。そして、この結果は各クラ  
スに還元されます。

この様な行事を通して、生徒  
達は自治的な考え方を学び、さ  
らに良き校風を築いていくこと  
と思われます。今年になってか  
ら、同センターより昨年の活動  
に対し、高い評価を受け、再訪  
の依頼をいただきました。本年  
も良質な活動をめざして活動を  
開始したところです。

営業品目  
自社製造品(セパレーター各種・両ネジ・金ネジボルト・ボルト全般)  
仮設型枠資材・仮設機材・土木建設資材  
設備機材・軽量天井・間仕切材

**(有) 協栄ネジ**

代表取締役 猪越幹雄(昭和30年度機械科卒)

本社/〒962-04 福島県須賀川市大字滑川字中津沢46の1  
☎(0248)76-0215(代)  
FAX(0248)76-1789

工場/郡山・須賀川・千葉 営業所/仙台・千葉・関東

県建設業登録許可番号(特一2)第3537号  
須賀川市水道工事公認店  
給排水・給湯・衛生・冷暖房・空調調和設備工事

**IS 春日設備工業株式会社**

代表取締役 春日 力(昭和40年度建築科卒)

福島県須賀川市堀底町18  
☎(0248)76-2131(代)  
FAX(0248)76-2132

2. 進学希望内訳

( ) は女子内数

専攻	機械	電気	電子	情報	建築	化工	小計	合計
大学	理工系 7	4	3	5	4(1)	2	25(1)	27(2)
	文科系 0	0	1	1(1)	0	0	2(1)	
短大	理工系 1	0	0	0	0	0	1	1
	文科系 0	0	0	0	0	0	0	
専修・各種校	14	1	6	4(2)	4	8(3)	37(5)	44(5)
職業訓練校	7	0	0	0	0	0	7	
計	29	5	10	10(3)	8(1)	10(3)	72(4)	72(7)

日からの採用試験の結果、二十六名の不合格者が出た事です。受験者の成績不良がその理由でしたが、マスコミなどでの「パブル破裂」の言葉が使われだしたのもこの頃からでした。これだけ大量の不合格者が出た事はかなりのショックでしたが、反面では下級生にとって大きな刺激となったようです。安易な学校生活を送っていたのでは希望

3. 産業界内定内訳

( ) は女子内数

産業別	機械		電気		電子		情報		建築		化工		計		求人企業	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
農林鉱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
建設	2	0	4	9	1	2	0	0	10(4)	19(7)	0	0	17(4)	30(7)	102(3)	547(20)
製造	46	33	36	8	18(1)	3	12(1)	11(1)	0	0	34(15)	23(5)	146(17)	78(6)	361(84)	1025(108)
電気ガス	0	0	4	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	3	3	11
運輸・通信	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	13(4)	84(14)
卸・小売	4	0	1	1	1	1	2	1	1(1)	0	3(1)	0	12(2)	3	171(28)	479(70)
金融・保険	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3(2)	4
不動産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1)	6
サービス	2	2	0	9	0	2	2(1)	3(1)	3(1)	0	1(1)	2(2)	8(3)	18(3)	94(25)	548(39)
計	54	35	45	29	20(1)	9	16(2)	17(2)	14(6)	19(7)	38(17)	25(7)	187(26)	134(16)	750(151)	2704(252)

は叶えられない事が少なからず判った様です。「災いを転じて福」と成せればと願っています。今年度の進路内定状況は別表の通りですが、進学、特に大学への進学希望数が昨年度より倍増した点特徴でしょう。上級学校への進学率が上昇している昨今ですから、本校もその例に漏れずと云ったところでしようが、希望を叶えるための努力が

4. 公務員内定内訳

職種	人数	職種	人数
国家公務員Ⅲ種	2/4	須賀川市役所	0/2
福島県警	0/2	福島県職員	[1]/4
福島県学校事務	0/1	自衛官(曹候補士)	0/1(1)
郡山市役所	0/3	自衛官(二士)	1/1(1)
平田村役場	[1]/1	警視庁	[1]/1

合格/受験者  
( )女子内数  
[ ]一次合格

延べ受験者 計 19名

伴っていない事が気になります。就職では製造関係の企業に内定した数が圧倒的に多いのですが、本校のような工業系では健全な選択でありましょう。ただ働く事についての認識がかなり不足していて、学校生活の延長の様に考えている者が居る事は、今後の進路指導に際しての課題の一つです。

企業の方々から本校の卒業生が企業を中心となつて働いている話しをよく聞きます。生徒の進路指導に当る私達も、自分の進路を決める生徒も、それに生徒の親にとつても同窓生の皆さん方が多くの企業で活躍されている事は、非常に心強い事なのです。入社した後輩達が早く一人前になる様、特段のご指導をお願い致します。

二級建築士事務所 第22(112)0712号  
インテリアプランナー・建設大臣認定第88-00698号  
住宅金融公庫特定業務登録建築士事務所  
建築・内装工事業県知事登録(般62)14634号  
商業施設・商店建築・店舗内外装工事 設計・監理・施工  
一般住宅建築・増改築改装工事

**KD 株式会社 郡山デザイン・店舗工芸社**

二級建築士・インテリアプランナー  
代表取締役 有我 榮 (昭和35年度機械科卒)  
〒963 福島県郡山市深田台1番地の6  
☎(0249) 44-7171(代) FAX(0249) 44-7168

《技術と信頼》

- 鉄骨建築一式工事
- 新日鉄NSTラス
- 新日鉄一次加工指定工場
- 全構連認定工場
- 新日鉄スタンパッケージ
- 建築一式工事

**株式会社 久保田鉄工所**

代表取締役 佐藤 進一 (昭和27年度機械科卒)  
精度検査主任 吉田 清恵 (昭和51年度機械科卒)  
〒963 福島県郡山市富田町西町下15番地  
☎(0249) 51-0253(代) FAX(0249) 51-1399



# 部活動状況

## ● 野球部

顧問 佐藤 謙敬

昨年夏の初戦敗退から一年、今夏は四回戦まで進みました。劣勢の中、際だった選手もおらず、勝利を治められたことは大変価値があったと思います。それと共に、同窓生、OBの方々の力強い応援から、強い期待を感じました。  
現在のチームは前年同様、小粒で地味ですが、「継続は力なり」の格言通り、地道に努力し、優勝を目指して行きたいと思えます。



## ● サッカー部

顧問 仲本 武司

高校新人大会県南地区予選敗退という屈辱的なスタートをきったチームも、高校サッカー選手権大会では準決勝まで勝ち上がり、実力を発揮することができました。伝統のハードなまでの練習が功を奏したものでしょう。可能性を持った選手、意欲的な選手の出現が待たれるわけですが、伝統の厳しい練習を通しての人格形成を目標に、常に優勝を目指して頑張っていきたいと思えます。

## ● 陸上部

顧問 三留 邦俊

陸上競技部の活動は、基礎体力の低調のため、目立った好成績を納めることが出来なかったが、三年飯村が棒高跳で東北大会に出場したのが最高であった。新人においては、北工伝統の棒高跳で二年紫桃、一年生では、一〇Hの木賊、投てき種目では、安田、熊田、本田の三名が期待出来る選手である。一方、駅伝競争は、部員不足で充実した練習が出来ず、相変わらず低迷を余儀なくする状態である。

## ● バレー部

顧問 安斎 博

平成三年度バレー部成績  
一、県高校大会県南予選 二位  
二、県高校大会 三位  
三、一年生大会 二位  
四、県総合体育大会 三位  
F T V 杯の出場権を獲得

## ● 吹奏楽部

顧問 中山 郁子

去る一月十九日、吹奏楽部



定期演奏会が文化センター大ホールで満員の聴衆のもと、盛大に開かれました。今年は十九日(日)ということによって二部にOB演奏を取り入れました。地元は勿論のこと東京方面、仙台等各地から大勢集まり、音楽する喜びをしみじみ感じたひとときでした。定演で一年間の活動が終了し、また来年にむけて活動を開始しました。本校のマーチングは平成七年の福島国体の式典等で内外より期待され、なお一層の充実が求められています。

**株式会社 清水工業**

取締役社長 清水 善一 (昭和31年度建築科卒)  
一級建築士第46405

〒963 福島県郡山市西ノ内一丁目11番7号

☎ (0249) 32-4318(代)  
FAX (0249) 33-2196

ビュープラザ店(婦人服・ハンドバック) 郡山市中町3-1ビュープラザ1階 ☎24-1144  
希望ヶ丘店(袋物・靴・アクセサリ) 郡山市富田町大徳南アーデン内 ☎52-0511  
ビックカウンター(コーヒー・レストラン) 郡山市中町3-1ビュープラザ2階 ☎24-0541

**サリエ**

事務所 郡山市中町3-1 ☎0249-32-2140

郡工 昭和26年度機械科卒 今 泉 善 治  
郡工 昭和31年度建築科卒 今 泉 善 英



東京支部総会：中野・日本閣

平成三年の六月二十九日(土)午後五時から東京中野の『日本閣』において、学校から齋藤功教頭先生、同窓会本部から先崎一郎会長ら五名の来賓を迎え、会員五十九名の参加により大変盛大に総会が開催された。

総会の開催にあたり、小野寺支部長の挨拶にはじまり、来賓、

# 八鍬氏・芳賀氏ら新任 東京支部総会盛大に開催

本部を代表して先崎一郎会長の挨拶、齋藤功教頭先生からは、学校の現況報告の話がなされた。引き続き、広江力男顧問、増子久治副会長ら本部役員から同窓会本部の近況や活動状況等の報告があった。

総会に入り、議事の支部活動報告、会計報告、会計監査報告がなされ承認された。次いで、本総会の重要な議事である役員改選について慎重に審議がなされ事務局提案通り満場一致で承認可決された。今回の改選で、小野寺支部長の再選、そして副



支部長、幹事等の若干名の増員が図られたのが特色としている。また、永年支部活動にご尽力された渡辺事務局長が会計監査につかれ、後任には、山口輝光氏が就任された。その他、八鍬喜一事務局長、芳賀進一会計等が新たに加わり新体制でスタートすることになり、執行部に対する支援と協力をお願いし総会を終えた。

総会終了後、懇親会が行なわれお互い旧交を温め、さらに懇親を深め再会を誓い全スケジュールを終了した。

## 定時制生徒会 活動について

定時制生徒会顧問  
渡辺積雄

日頃から同窓会にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。定時制は年々生徒数が減少し、生徒会活動にも多かれ少なかれ支障をきたすようになってきましたが、一丸となって生徒会発展のため努力を重ねています。部活動では、本年度も軟式庭球と柔道が全国大会に出場し、全国に郡山北工業高校の名を響かせました。毎日授業が終る九時過ぎから遅くまで練習した成果ではないかと思えます。今後も活躍が期待されます。他に軟式野球・卓球・バレーボール部は、今回全国大会に出場はできませんでしたが、来年度を目標して頑張っています。

また、校内の生徒会行事においては、春秋の球技大会を例年通り実施(ソフトボール・ボーリング)し、大変盛り上がりました。報道委員会の苦勞により、立派な機関紙『よぞら』もできあがりしました。来年度は「北嶺祭」を控え、成功させるべく努力をしたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。

**TEP**

株式会社 **東北エンタープライズ**

取締役社長 先崎一郎 (昭和31年度機械科卒)  
常務取締役 中村 勝左エ門 (昭和35年度建築科卒)

本社 ● 福島県郡山市開成4-8-15 〒963 TEL 0249-33-2555代 FAX 0249-23-2555  
仙台支社 ● 仙台市青葉区立町20-10(ピースビル西公園4F) 980 TEL 022-265-6382代 FAX 022-265-6395  
福島営業所 ● 福島市森合字西向山10-5 〒960 TEL 0245-33-4812代

■ 空調設備、給排水衛生設備の設計・施工および保守管理

営業品目

火災報知設備・構内交換電話設備・消火設備・防火排煙設備・非常用放送設備・テレビ共聴設備  
消火器・防犯設備・以上に附帯する一切の業務

**田村通信防災工業株式会社**

代表取締役 増子久治 (昭和42年度電気科卒)

郡山市安積町荒井字下北井前4-1  
☎(0249) 45-2882代 FAX(0249) 46-2875

## 平成2年度 決算報告

1 収入総額	3,385,196円
2 支出総額	2,569,803円
3 差引残高	815,393円

## 1. 収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	増 △減	備 考
繰 越 金	102,962	102,962	0	
会 費	1,260,000	1,260,000	0	(411+9) 名×3,000円
入 会 金	1,287,000	1,287,000	0	(420+9) 名×3,000円
会 誌 広 告 料	170,000	269,485	99,485	広告掲載料
北 窓 会 助 成 金	300,000	300,000	0	北窓会からの助成金
雑 収 入	1,038	165,749	164,711	名簿売上、銀行利息
合 計	3,121,000	3,385,196	264,196	

## 2. 支出の部

項 目	2 年 度 予 算 額	決 算 額	増 △減	備 考
基 本 金	509,400	509,400	0	849名×3,000円×0.2
特 別 基 本 金	0	0	0	
会 議 費	350,000	113,716	△ 236,284	三役会、幹事会など
事 務 費	35,000	37,169	2,169	職員録、プリンタインクリボン
慶 弔 費	320,000	238,636	△ 81,364	餞別、賞品、香典など
通 信 費	550,000	511,433	△ 38,567	会報送料、葉書、切手
旅 費	250,000	150,220	△ 99,780	東京・水戸支部総会等
会 誌 編 集 費	300,000	281,412	△ 18,588	会誌印刷、折込謝礼等
渉 外 費	80,000	63,335	△ 16,645	関係機関との渉外諸費
卒 業 生 諸 費	350,000	337,462	△ 12,538	卒業記念品、名簿印刷
事 務 局 費	80,000	80,000	0	事務局手当
工 業 祭 費	0	0	0	
予 備 費	296,600	247,000	△ 49,600	表彰副賞など
合 計	3,121,000	2,569,803	△ 551,197	

差引残高815,393円は次年度へ繰り越します。


**鋼構造物製作**  
 福島県知事許可(般-2)第2528号  
 全国鉄構工業連合会・鋼構造物製作工場認定第02.M.6018号

 **株式会社ビクセル**

代表取締役 橋本保一 (昭和35年度機械科卒)

本社工場/福島県郡山市田村町上行合字下川原97番地  
 電話0249(44)3213(代表) FAX0249(44)3218

〈確かな技術が未来を築く〉  
 火力発電プラント・各種プラント設計製作

 **東陽工業株式会社**

取締役社長 大塚正博 (昭和30年度機械科卒)  
 取締役 落合弘 (昭和32年度機械科卒)

〒969-11 福島県本宮町青田字花掛20番地  
 ☎(0243)34-2730(代)  
 FAX(0243)33-3790

## 平成2年度 基本金報告

① 収入の部

項目	金額	備考
繰越金	7,762,728円	
本年度基本金	499,200円	832人×3,000×0.2
雑収入	341,109円	銀行利息
合計	8,603,037円	

② 支出の部

0円

③ 残高

8,603,037円

・中国ファンド 8,570,000円  
 ・定額預金 13,301円  
 ・定額預金 19,736円

## 平成2年度 新会員報告

全 日 制		定 時 制	
科	人数	科	人数
機 械 科	120名	機 械 科	11名
電 気 科	80名	電 気 科	10名
電 子 科	37名		
情 報 技 術 科	41名		
建 築 科	38名		
化 学 工 学 科	79名		
小 計	395名	小 計	21名
		合 計	416名

技術とアイデアで対応致します!!  
 ◀ラインの自動化・工程の自動化に御相談下さい▶

〔営業品目〕

- メカトロニクス製品
- 電子回路システム
- 自動制御盤

設計製作

〔製作実績製品〕

- 産業用ロボット・オートローダー・アンローダー(NC機とドッキング)
- インデックステーブルによる自動組立機
- XYテーブルによる自動組立機
- フリーフローラインによる自動化システム


他、ユーザーのニーズに対応致します!!

### 株式会社 宮川ハイテクマシーナリー

代表取締役 宮川 正年(昭41年度機卒) 制御部長 宮川 工(昭46年度電卒)

本社 郡山市虎丸町9-15 ☎0249-32-2159 FAX33-7623  
 工場 郡山市富久山町久保田字大久保68-2 ☎0249-22-8470代 FAX34-4336  
 制御部 郡山市喜久田町字高蒲池1-1 ☎0249-59-3970代 FAX59-3836

画像・映像・情報電子機器及びハイブリッドICの生産

 **福島アビオニクス株式会社**

代表取締役 凌 木 謙 生(昭和27年度機械)

伊藤 貞栄(昭和57年化学) 大越 幸治(昭和59年機械)  
 伊藤 清一(平成元年電子) 大和田隆幸(平成元年機械)  
 菅野 克也(平成元年情報) 高原美智子(平成元年化学)  
 田母神 努(平成元年電気) 渡辺 信一(平成元年電気)  
 内山 一哉(平成2年機械) 佐々木勝雄(平成2年電気)  
 松崎 公彦(平成2年電気)

〒963-04 郡山市片平町字渡戸山1番地  
 (郡山西部第二工業団地)  
 ☎(0249) 59-1300(代表)

冷暖房空調・給排水衛生設備・浄化槽及各种水処理  
 消火設備・上下水道施設工事  
 設計・施工・管理  
 県知事許可(特-2)4141

## 山田設備工業株式会社

代表取締役 山 田 義 顯 (昭和35年度機械科卒)

福島県白河市南堀切158-2  
 ☎(0248) 21-1195(代) FAX(0248) 23-2150

会社、団体、個人、車輛リース取扱い

運輸大臣認定・陸運局長指定

 **株式会社 プリレント大沼**

〈旧(株)大沼自動車整備工場〉

車検システム機器導入・電子燃料噴射装置(E車)  
 ・整備コンピューター

代表取締役社長 大 沼 良 雄 (昭和31年度建築科卒)

〒963 郡山市賀正44-1  
 ☎(0249) 45-0605 FAX(0249) 47-0580